

【10-3-9】 主要科目の特長（スポーツ健康学部スポーツ健康学科）

スポーツ健康学科のカリキュラムを構成する各科目群・分野の内容は次のとおりです。

(1) NGU 教養スタンダード科目

キリスト教に関する科目

〈キリスト教〉に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教学」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」についてを理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a~3b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

社会的教養に関する科目

〈人間理解〉、〈社会理解〉、〈自然理解〉、〈歴史文化理解〉、〈環境理解〉、〈身体理解〉（〈身体理解〉）、〈地域理解〉

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには専門の学修だけでなく、一般教養の修得が欠かせません。文学、哲学、心理学を学ぶ〈人間理解〉、社会のしくみを考える〈社会理解〉、自然をさまざまな角度からながめる〈自然理解〉、人間や世界の文化や歴史を学ぶ〈歴史文化理解〉、地球環境や生態系について考察する〈環境理解〉、スポーツの実技と理論、健康について学ぶ〈身体理解〉（〈身体理解〉）、まちづくりを多様な視点から考える〈地域理解〉の中から、バランスのよい履修を心がけてください。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を学びます。また、「手話」や「日本語表現上級」も学修することができます。

情報理解に関する科目

情報教育の充実、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、す

すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

教職に関する科目

ここに設置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

(2) 専門科目

① 学部共通科目

〈学部共通科目〉では「健康科学概論」ならびに「スポーツ科学概論」を始め、基礎的な内容を扱う講義とスポーツ実技科目が配置されています。

② 学科基礎科目

〈学科基礎科目〉のスポーツ実技科目としては、学校体育で扱われる主要な種目（内容）を中心に、それらに関する知識を学ぶと同時に、基礎的な技術や指導方法を身につけます。

③ 学科専門科目

〈スポーツ科学科目〉では、「スポーツトレーニング論」や「体カトレーニング論」を始め、スポーツに関する自然科学ならびに人文社会科学分野の科目が配置されています。

〈健康科学科目〉としては、「スポーツ薬理学」や「保健統計」を始め、健康対策や疾病予防などに関する科目が配置されています。

〈演習科目〉としては「専門演習」（2年次）、「研究演習」（3年次）および「卒業研究」（4年次）が置かれています。これらに加えて1年次に〈NGU 教養スタンダード科目〉として開設される「基礎セミナー」および「基礎セミナーⅡ」を連携させて、4年間をとおしての一貫した演習指導体制を準備しています。

なお「教職実践演習」は教育実習と一体化して展開される科目で、教職課程に必要な別なものとして置かれています。

(3) 演習科目

スポーツ健康学科では、1年次に「基礎セミナー」および「基礎セミナーⅡ」、2年次に「専門演習」、3年次に「研究演習」さらに4年次に「卒業研究」を設けることにより、4年間一貫した少人数でのゼミナール形式の演習をおこないます。

みなさんは、学修のそれぞれの段階で、指導教員のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や討論を通じて問題を解決しながら、能力の向上に努めてください。

また、4年間一貫のゼミナール教育で、積極的な人間的交流を図ることにより、幅広

い友人関係を育み、指導教員を含めた有機的なコミュニケーションのパイプを築いてください。

ゼミナールは4年間の大学生活の中核であり、学修、研究、指導教員やゼミ生間の交流をととして大学での学修の集大成となり、将来の人生への基盤となるものです。

①<基礎セミナーおよび基礎セミナーⅡ>

1年次配当の「基礎セミナー」および「基礎セミナーⅡ」は、導入および基礎教育をフォローための科目です。2・3年次においての専門研究に取り組むための基礎を築きます。

- ①スポーツや健康に関する文章を読み、その内容を要約、紹介する。
 - ②スポーツや健康に関する問題を提起し、討論する。
 - ③スポーツや健康に関する情報を収集し、紹介する。
 - ④図書検索や、インターネットを利用した検索を学修する。
- ①から④の方法をととして、健康に関する知識を高めながら、読解力の育成や文章を要約しまとめる能力の向上を図ります。

②<専門演習>

2年次配当の「専門演習」では、興味のあるスポーツや健康に関するテーマを基本に、指導教員のもとで、より専門的な学修をおこないます。

- ①スポーツや健康に関する図書や文献を読み、その内容について紹介、討論をおこなう。
- ②スポーツや健康に関する英語の文章を読み、報告、討論をおこなう。
- ③スポーツや健康に関するテーマの中で、関心のある事象を調べ、報告する。
- ④レポート作成やプレゼンテーションの基礎を学ぶ。

③<研究演習>

3年次配当の「研究演習」では、スポーツや健康に関する多くの課題の中から、卒業研究テーマを模索しながら自らの関心を絞り込み、情報収集、資料収集を通じて卒業研究テーマの基礎を学修します。

- ①国内および海外で刊行された専門の文献や著書を読み、その論点の要旨を理解する。
- ②専門の文献や著書の読解をととして、その論点を理解し、問題点を探る。
- ③関心のある事象の問題点を整理し、その解決方法を探る。
- ④関心のあるテーマを絞り、研究課題を策定、プレゼンテーションをおこなう。
- ⑤プレゼンテーションおよびその討論を基礎にして研究報告書(4,000字以上)の作成をおこなう。

卒業研究をおこなうための基本的研究への取り組み姿勢を養いながら、研究の方法論を身につけてください。

④<卒業研究>

「卒業研究」は、「研究演習」の指導教員のもとで作成した「研究報告書」をもとに専門的研究の集大成として、研究成果を卒業論文（10,000字以上）にまとめます。

◎専門科目の一部をピックアップ

スポーツ実技

中学校・高等学校の体育の授業で行われる体操や球技、水泳、陸上競技などの実技種目の指導方法や、障がい者のスポーツ活動の支援方法のほか、ウォーキングやジョギング、アタビクスといった社会人の健康づくりにも有効な運動方法も、実践的に学びます。

スポーツ心理学

心理学の視点からスポーツをとらえ、実践や体験を通して心と体の関係を学びます。イップスや金縛りなどの例も取り上げ、運動の制御や学習メカニズム、メンタルトレーニングについて知識を深めながら、自分自身の成長にもつなげます。

バイオメカニクス

人の動きを力学的に分析・理解し、運動の特徴や上達方法を学ぶことで、日常動作を分析的に見る視点を獲得します。パフォーマンスを上げる動きの改善や、動作に適した道具の使い方、環境によって異なる運動の工夫などについても理解を深めます。